

平成25年滋賀県の労働災害発生状況

平成26年4月
滋賀労働局

死傷災害は4年連続増加を回避 2.2%の減！！

～製造業では大幅な増加～

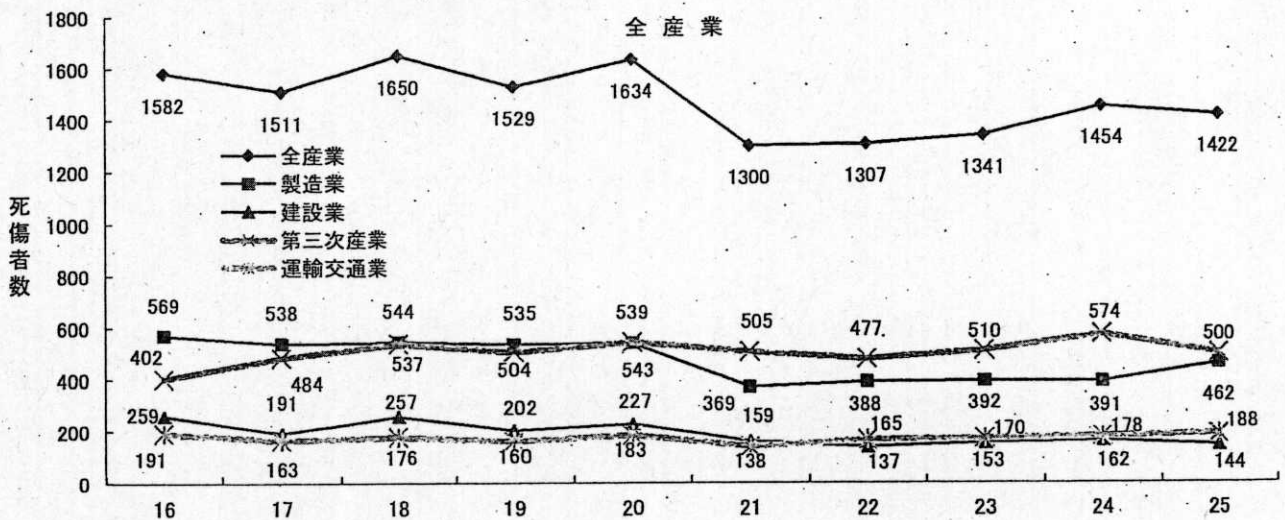
1. 概況

① 災害発生状況

滋賀県内の労働災害による休業4日以上死傷者数は、第1図に示すように、平成22年から3年連続の増加であったが、平成25年の休業4日以上死傷者数は、全産業で1,422人となり、前年に比べ32人(-2.2%)の減少となった。

業種ごとの内訳では、建設業が144人(前年比-11.1%)、第三次産業が500人(前年比-12.9%)と減少した反面、製造業が462人(前年比+18.2%)、運輸交通業が188人(前年比+5.6%)と増加した。

＜第1図＞ 休業4日以上死傷者数の推移

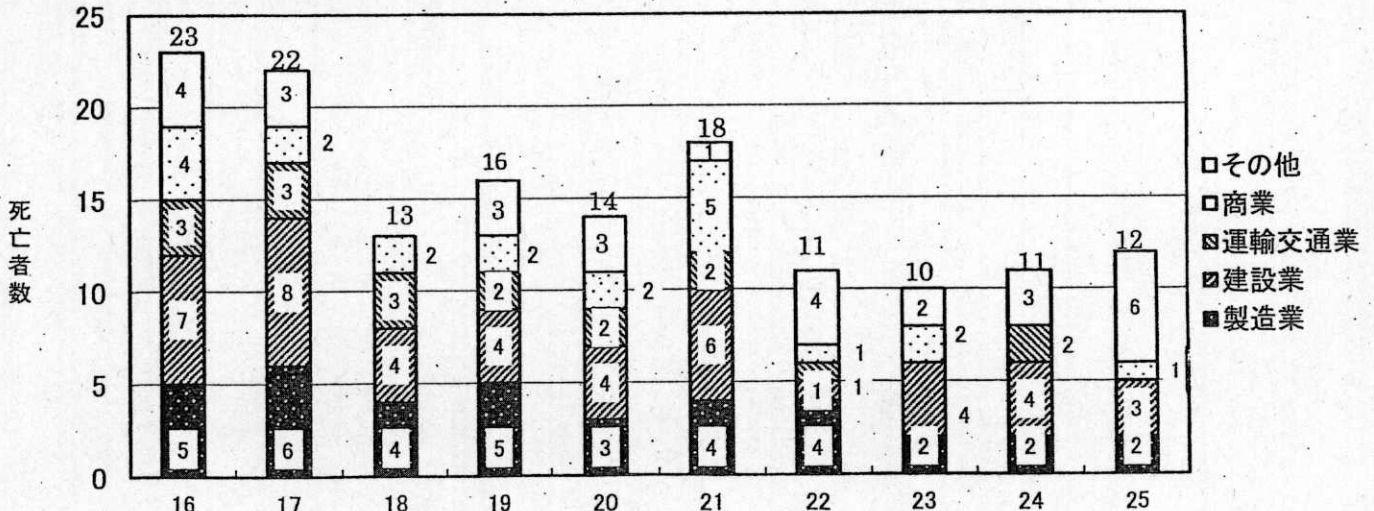


② 死亡災害発生状況

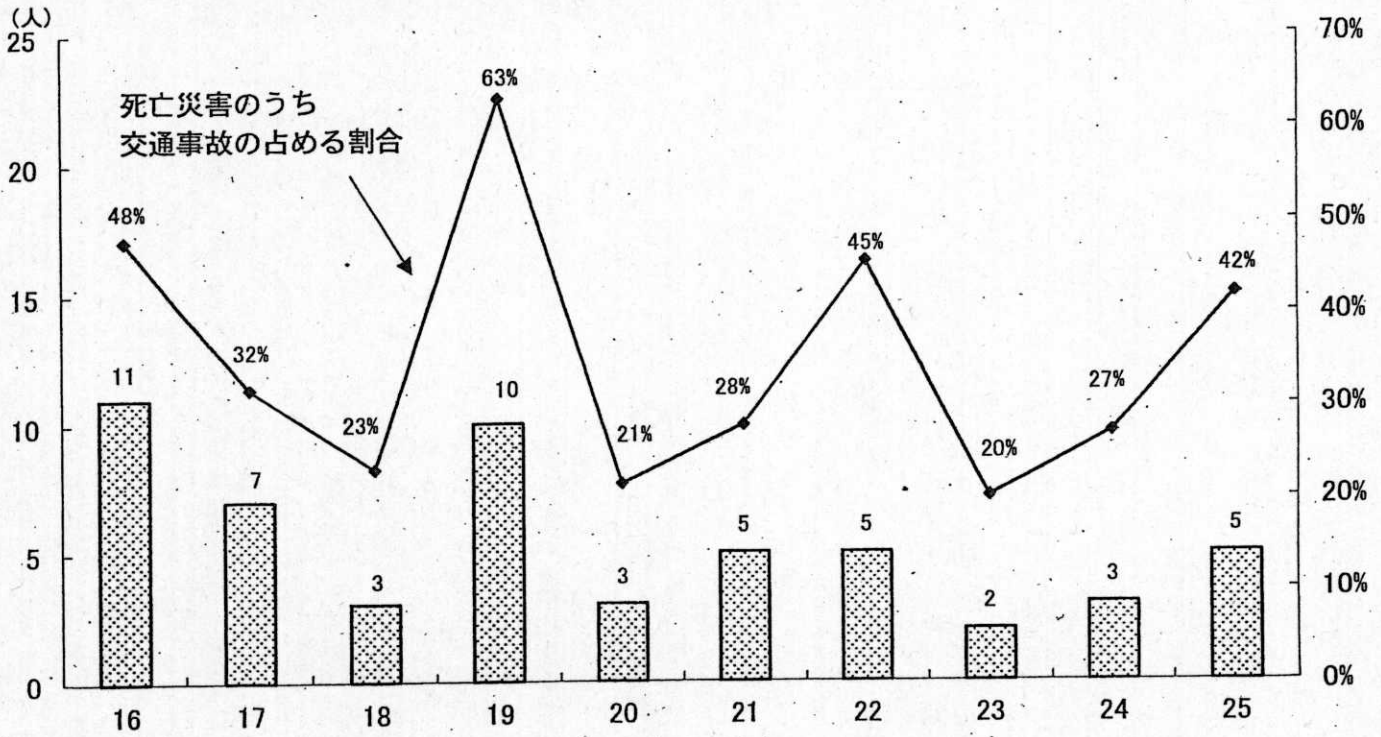
死亡災害は第2図に示すように、ここ数年は増減を繰り返しており、平成25年は12人で、前年に比べ1人増加した。

交通事故による死亡者数は、第3図に示すように5人となっている。

＜第2図＞ 死亡者数の推移



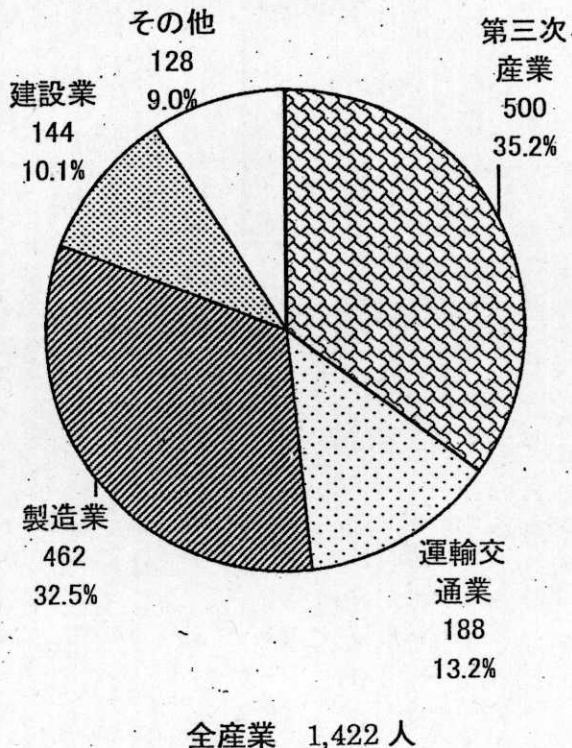
<第3図> 交通事故による死亡者数の推移



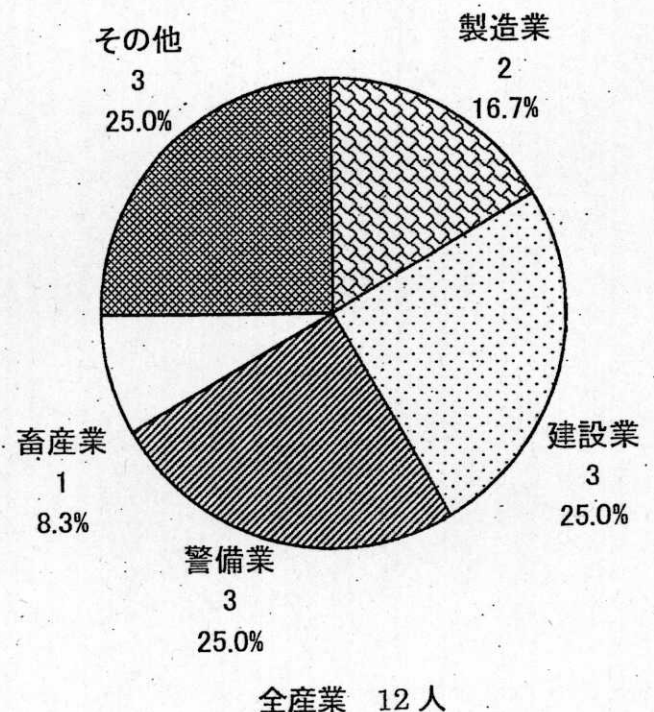
2 業種別の発生状況 (平成25年)

- 休業4日以上死傷者数は、第4図に示すように第三次産業が500人と最も多く、次いで製造業462人、運輸交通業188人、建設業144人の順になっている。
第三次産業の内訳は、商業170人、社会福祉施設90人、接客娯楽業87人、清掃業46人などである。運輸交通業の内訳は、道路貨物運送業166人などである。
- 死亡者数は、第2図及び第5図に示すように、建設業が3人で前年より1人減少し、製造業が2人で前年と同数であったが、警備業が3人で前年より2人増加し、それ以外の事業(畜産業、新聞配達等)で4人となった。

<第4図> 業種別死傷災害



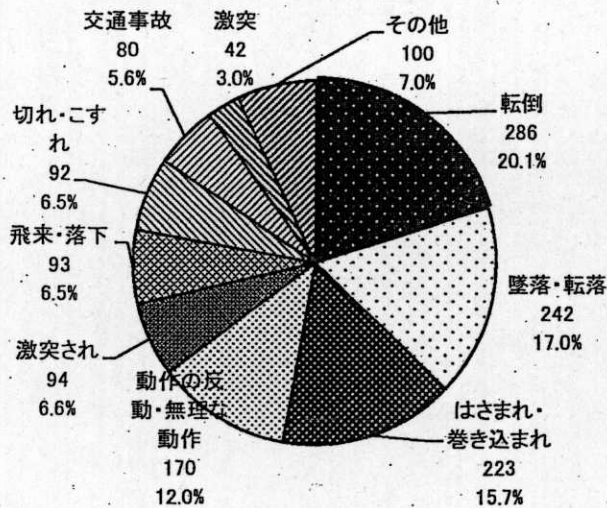
<第5図> 業種別死亡災害



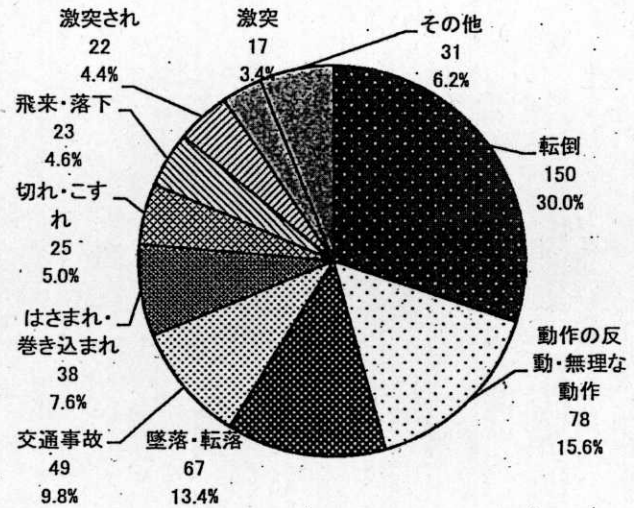
3 事故の型別の状況 (平成25年)

- ① 死傷者数を事故の型別で見ると、第6図に示すように「転倒」が20.1%と最も多く、次いで「墜落・転落」が17.0%、「はさまれ・巻き込まれ」が15.7%の順で発生している。
- ② 業種別に事故の型別の死傷者数をみると、第三次産業では「転倒」が30.0%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が15.6%、「墜落・転落」が13.4%の順で発生している。
 製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が28.4%と最も多く、次いで「転倒」が16.9%、「墜落・転落」が11.9%の順で発生している。
 また、建設業は「墜落・転落」が29.9%と最も多く、次いで「飛来・落下」が14.6%、「転倒」が11.1%の順で発生している。

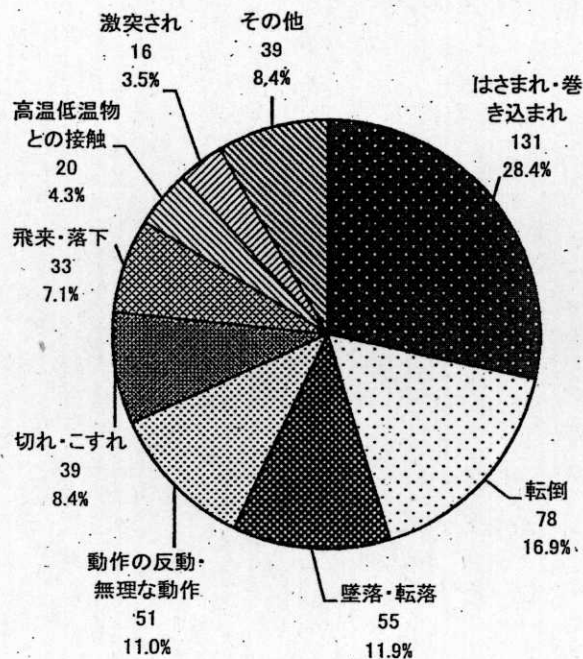
＜第6図＞ 事故の型別死傷災害



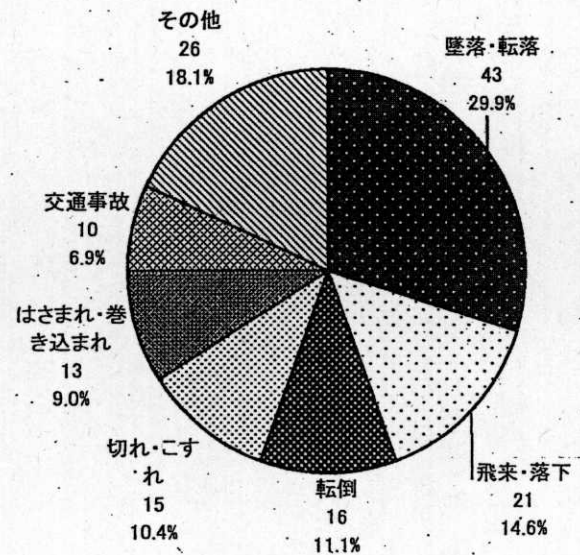
全産業 1,454人



第三次産業 500人



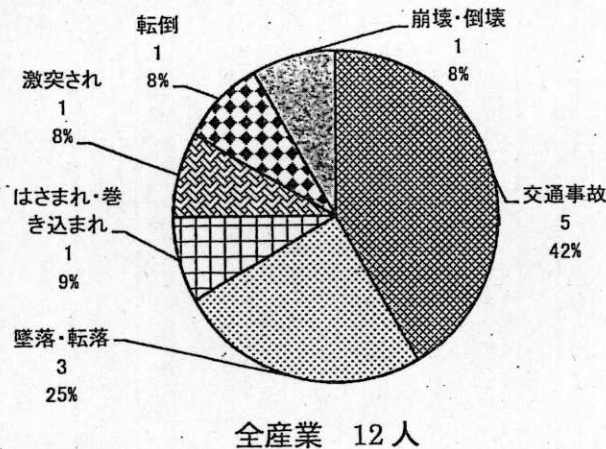
製造業 462人



建設業 144人

- ③ 死亡災害の事故の型別では、第7図に示すように全数12人のうち、「交通事故」が5人、「墜落・転落」が3人、「はさまれ・巻き込まれ」・「激突され」・「転倒」・「崩壊・倒壊」が1人ずつ発生している。

<第7図> 事故の型別死亡災害

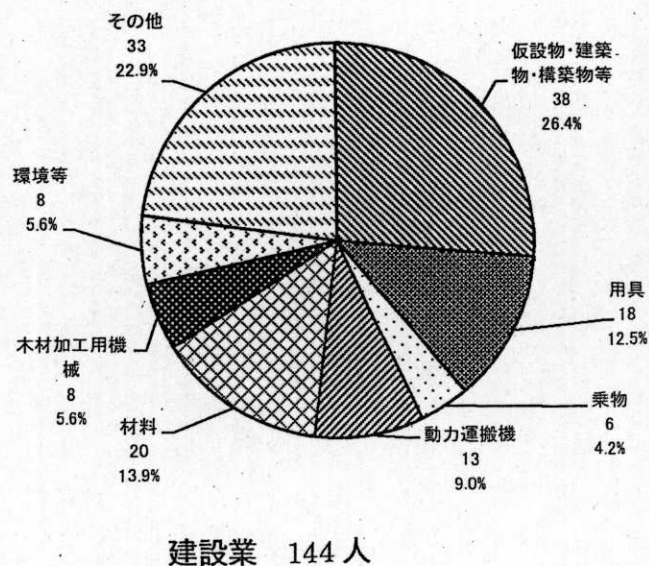
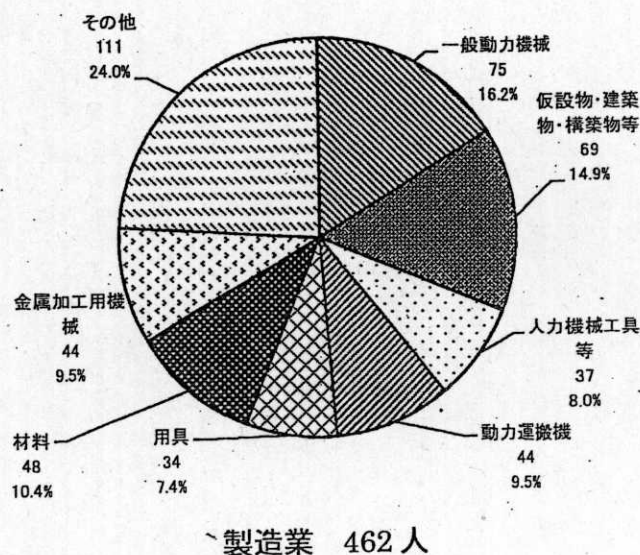
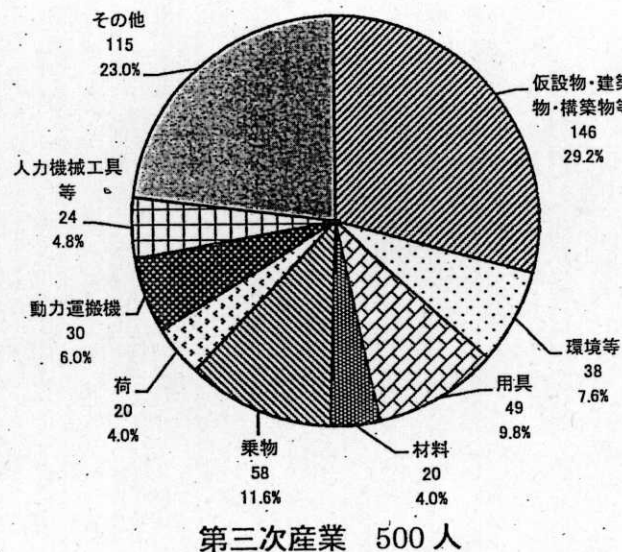
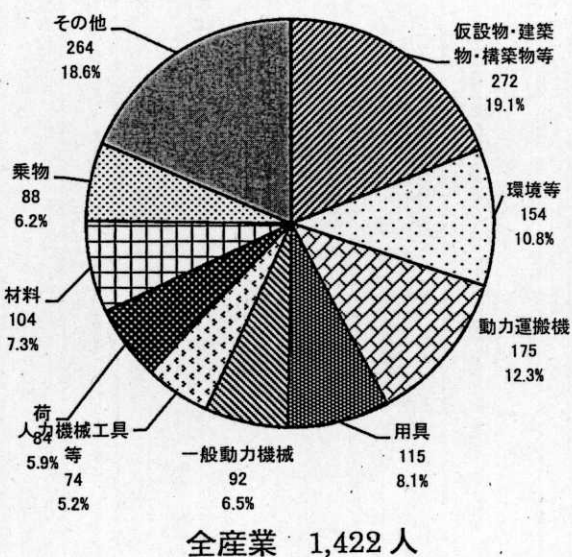


4 起因物別の状況 (平成25年)

死傷者数を起因物別でみると、第8図に示すように「仮設物・建築物・構築物等」が最も多く19.1%を占めている。

第三次産業では「仮設物・建築物・構築物等」(29.2%)が、製造業では「一般動力機械」(16.2%)が、建設業では「仮設物・建築物・構築物等」(26.4%)が、それぞれ各業種における起因物の内訳で最も多くの割合を占めている。

<第8図> 起因物別死傷災害



*各統計は、「労働者死傷病報告」の集計結果に基づく。